

2026（令和8）年7月3日

第23回安全表彰式を開催しました

鉄道・運輸機構（JR TT）では、令和8年7月3日（金）、横浜アイランドタワー（横浜市中区）において、第23回安全表彰式を開催しました。

本表彰は、工事のさらなる安全を推進するため、毎年、工事事故防止において顕著な成績をあげられた受注者を表彰しているものです。令和7年度受注者表彰として土木部門4社、軌道部門1社、通算5カ年無事故表彰として1社を表彰しました。

なお、式典では機構の安全推進の取り組みも紹介しました（別紙-2）。

1. 表彰会社

表彰名	工事部門	社名	備考
令和7年度受注者表彰	土木部門	清水建設株式会社	
		鹿島建設株式会社	
		岩田地崎建設株式会社	
		飛島建設株式会社	
	軌道部門	極東興和株式会社	
通算5カ年無事故表彰		東日本コンクリート株式会社	

詳細は別紙-1に記載のとおり



第23回安全表彰式 記念撮影

<本件に関するお問合せ先>
建設企画部技術企画・安全推進課
TEL 045-222-9063

第23回安全表彰式 表彰会社の契約工事一覧

【第1部門】明かり工事・ずい道工事

受賞者	線区名	工事件名	受注者
清水建設株式会社	北海道新幹線	渡島トンネル（上二股）	清水・岩倉・新谷・高橋JV
		国縫高架橋	清水・京成・高橋JV
		二ツ森トンネル（尾根内）	清水・岩倉・札建・吉本JV
	中央新幹線	中央アルプストンネル（萩の平・広瀬）	清水・三井住友・東急JV
鹿島建設株式会社	北海道新幹線	昆布トンネル（宮田）他	鹿島・五洋・宮坂・荒井JV
		札幌トンネル（星置）	鹿島・岩田地崎・荒井・森川JV
		札幌車両基地高架橋1	鹿島・飛島・岩田地崎・中山JV
		札幌車両基地高架橋2	鹿島・飛島・岩田地崎・中山JV
	中央新幹線	中央アルプストンネル（山口）	鹿島・日本国土開発・吉川JV
岩田地崎建設株式会社	北海道新幹線	札幌トンネル（銭函）	岩田地崎・荒井・森川・道興JV
		札幌トンネル（星置）	鹿島・岩田地崎・荒井・森川JV
		大新高架橋外1箇所	五洋・岩田地崎・千歳JV
		札幌車両基地高架橋1	鹿島・飛島・岩田地崎・中山JV
		札幌車両基地高架橋2	鹿島・飛島・岩田地崎・中山JV
飛島建設株式会社	北海道新幹線	新八雲（仮称）駅高架橋	飛島・東鉄・富士サルベージ・東陽JV
		立岩トンネル（豊津）他	飛島・梅林・高橋JV
		ニセコトンネル他	飛島・大豊・齊藤・白木JV
		札幌トンネル（富丘）	飛島・梅林・松谷・高橋JV
		札幌車両基地高架橋1	鹿島・飛島・岩田地崎・中山JV
		札幌車両基地高架橋2	鹿島・飛島・岩田地崎・中山JV

【第2部門】軌道工事

受賞者	線区名	工事件名	受注者
極東興和株式会社	北海道新幹線	倶知安軌道スラブ製作運搬	極東興和・東日本コンクリートJV

【通算5カ年無事故】

受賞者	年度	線区名	工事件名	受注者
東日本コンクリート株式会社	R7年	北海道新幹線	倶知安軌道スラブ製作運搬	極東興和・東日本コンクリートJV
	R3年	北陸新幹線	白山・加賀間軌道スラブ製作運搬	極東興和・東日本コンクリートJV
		九州新幹線	大村・長崎間軌道スラブ製作運搬	極東興和・東日本コンクリートJV
	R2年	北陸新幹線	白山・加賀間軌道スラブ製作運搬	極東興和・東日本コンクリートJV
		九州新幹線	大村・長崎間軌道スラブ製作運搬	極東興和・東日本コンクリートJV
	R1年	北陸新幹線	白山・加賀間軌道スラブ製作運搬	極東興和・東日本コンクリートJV
		九州新幹線	大村・長崎間軌道スラブ製作運搬	極東興和・東日本コンクリートJV
	H30	北陸新幹線	白山・加賀間軌道スラブ製作運搬	極東興和・東日本コンクリートJV
九州新幹線		大村・長崎間軌道スラブ製作運搬	極東興和・東日本コンクリートJV	

鉄道・運輸機構の 工事安全推進の取り組みについて

令和8年7月3日

独立行政法人

鉄道建設・運輸施設整備支援機構

1. 令和8年度 事故防止目標、スローガン

令和8年度 事故防止目標

- ・死亡災害ゼロ
- ・公衆災害ゼロ

- ・事業に携わる関係者の尊い命を守る
- ・事業実施地域において、安全・安心に工事を進める

令和8年度 工事安全推進スローガン

全役職員で取り組む現場が主役の安全推進

- ①PDCAサイクルを意識した
自主的かつ積極的な工事安全推進活動の実施
- ②本社と地方機関の連携と
受発注者一体の工事安全推進活動の実施
- ③ICTの安全への活用及び既存データの有効活用による
工事安全推進活動の実施
- ④工事安全推進に係る教育プログラムの充実による
全役職員の安全意識の向上

2. (参考) 工事安全推進の具体的な取り組み事例

- ・事故防止監査を年に2回(上期、下期)実施
- ・機構内の安全推進に関する委員会等による地方機関との連携
- ・外部団体と連携した安全講話の実施、聴講による安全意識の向上
- ・VR機材を活用し、事故の疑似体験を通しての安全教育への積極的参加
- ・事故データベース、生成AIを活用した安全推進活動
- ・安全集会(安全推進に関わる情報発信、幹部による安全講話)の聴講による安全意識の向上
- ・安全に関する各種対面・web研修の受講によるスキル等の向上

3. 工事安全推進活動の主な取り組み

1) 安全設備の標準化(試行)

- ①重機接触防止装置の設置(図-1参照)
- ②営業線近接工事におけるレーザーバリアの設置(図-2参照)
- ③定点カメラ映像の安全教育への活用

2) 外国人労働者への安全対策の取り組み

- ①多言語に対応した安全対策リーフレットを作成(図-3参照)
 - ※20言語のリーフレットを令和8年1月より4回発行
- ②受注者を通して外国人労働者へ展開

3) 「褒める文化」の醸成

- ①受注者の推奨事例を安全集会で紹介

3. 工事安全推進活動の主な取り組み



図-1 重機接触防止装置のイメージ



図-2 レーザーバリアのイメージ

Tertusuk paku

Tanggal	18 Juni 2020
Ringkasan kecelakaan	Sedang melakukan pekerjaan pembongkaran bekisting. Bekisting yang dibongkar diletakkan sementara di jalur lalu lintas dan masih terdapat paku. Paku pada bekisting tersebut menusuk telapak kaki kiri.
Tingkat cedera	Merah dan bengkak, terasa sakit saat berjalan.

Indonesia語

図-3 多言語リーフレットのイメージ